

登録コード	TOH11900	開講年度	2026					
授業科目	博物館実習（16T以降）				担当教員	寺内 美紀子 他		
英文授業名	Practice of Museumology 3				副担当			
単位数	1	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期		対象学生	学部4年生
講義室				授業形態	実習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	該当							
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】				【授業の達成目標】			
	2 5 Tカリ，2 3 Tカリ							
	【22T～】様々な課題を見つけ取り組む力が身についている。				学芸員の業務について理解し、博物館全般の諸課題解決に必要な知識を習得できるようになる。			
	2 6 Tカリ							
	【26T～】共通教育による幅広い教養と，工学の専門分野における基礎学力が身についている。				学芸員の業務について理解し、博物館全般の諸課題解決に必要な知識を習得し、能動的に解決策を提案するための素養を習得できるようになる。			
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、芸術文化、環境共生、多文化協働、キャリア							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	受講生は博物館実習Ⅱ前半において必要事項の自己点検と再確認を経た後、希望する博物館において資料の取り扱いや展示などの館園実習を行う。なお、この科目は、館園実習の事前・事後教育を目的とする学内講義科目である博物館実習Ⅱと連動している。							
(5)授業計画	第1回：ガイダンス(実習および実習前・実習後の達成課題について) 第2回：実習先博物館の事前リサーチ、実習先の決定以降、12回目までを実習とする、博物館・美術館における館園実習(30時間 45時間) 以下、13から15回を集中授業で行う 第13回：実習報告資料の作成（発表会までの提出） 第14回：実習報告会（合同発表会） 第15回：実習報告会（討議、受講3年生との質疑応答）、授業アンケート							
(6)成績評価の方法	実習受入博物館の評価および実習録による。							
(7)成績評価の基準	実習録から判断して、学芸員になるための経験と学修の成果が上がったと判断されれば可、じゅうぶんな成果が上がったと判断されれば良、とくに高い成果が上がったと判断されれば優、実習受け入れ先からとくに高い評価があった場合は秀とする。							
(8)事前事後学習の内容	実習にあたり、それまでに学んだ博物館関係の従業内容について復習をすること。実習時には、翌日の内容についてじゅうぶん下調べを行い、実習に望むこと。また、毎日の実習後には記録を取り、実習内容を振り返ること。							
(9)履修上の注意	博物館学芸員資格関連の他科目をすべて履修しておくこと。実習の説明(事前指導)時に、実習時の注意事項についてよく理解しておくこと。							
(10)質問,相談への対応	随時 メールが望ましいが、質問内容に応じて面談・相談を行う 寺内：terauchi@shinshu-u.ac.jp							
(11)その他								
【教科書】	指定しない							
【参考書】	「学芸員の仕事」神奈川県博物館協会編 磐田書院							